

(様式1)

令和2年度学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立江戸川小学校

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・児童一人一人に問いや考えをもたせ、学び合いを通して思考力・判断力・表現力を育てる問題解決型の授業づくりを行う。	最終評価	・校内研究で行っている意識調査の結果から、自分の考えをもったり、意見を比べたりすることができる児童が増えた。
環境作り		・言語や規則を守る環境を整え、教師や児童がICT機器を活用できるようにし、授業のユニバーサルデザイン化を図る。		・ICT機器を活用した説明の仕方、説明をする際の言葉の指導を継続したり、段階的に学び合いの指導を積み重ねることで、学び合う授業の形が定着してきている。

■ 学年の取組内容

学年	教科	令和元年度の定着度調査（1学年を除く）や6月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての児童の課題	改善のための取組	追加する取組等（12月）	年度末の取組評価（2月）
1	国語	学 ひらがなについては、どの児童も書けるようになっている。 学 文章を書く力には個々に差がある。	・ 助詞の「は」「へ」、拗音などを正しく書く力を伸ばしていく。 ・ 3文程度の文を書けるように指導する必要がある。	・ 家庭学習プリント、朝学習プリントなどで学習内容の復習を行い、学習内容を習熟させる。 ・ 作文や授業の振り返りなど文章を書く学習を週に1回行い、書く力を伸ばす。書き方の定型なども指導していく。		助詞の「は」「へ」などは概ね正しく書けるようになった。まだ苦手とする児童には、プリント等で引き続き指導をする必要がある。作文力は、ワークシートやノートに考えを書けるようになり、文章を書く力は確実に身に付いた。
	算数	学 足し算の習熟状況はおおむね良好であるが、引き算の習熟状況は個々に差がある。 学 文章題の場面を適切に読み取り、その場面に応じて立式するのが難しい児童がいる。	・ 引き算をできるように指導する必要がある。 ・ 文章題の読み取りができるように指導する必要がある。	・ 毎日の宿題で足し算、引き算の計算練習を行い、学校で習熟状況を確認する検定を行う。 ・ 問題をつくる学習をする。 ・ 朝学習や家庭学習などで反復して行う。		家庭学習に毎日取り組み、20までの足し算、引き算が暗算でもできるようになった。計算カードを使って検定を行い、年度末までに8割以上が合格した。習熟度別少人数指導を行ったことで、一人ひとりに必要な指導を丁寧にすすめることができた。図・式・言葉を使って分かりやすくノートに表現する力がついた。
2	国語	学 読書が好きな児童もいるが、自分で本を選んで読むことができない児童もいる。読書量にはばらつきがある。 学 漢字の書き取りでは丁寧に書く習慣が十分身につけていない状況があった。「とめ・はね・はらい」を丁寧に書く力はが身に付きつつある。 学 語彙力、書字などについては、個人差がある。	・ 書かれていることを正しく読み取る力を伸ばしていく。 ・ 文字を書き順通りに、字形を整えて丁寧に書く習慣を身に付くように指導する必要がある。 ・ 言葉の意味や漢字について、正しく理解できるように指導する必要がある。	・ 会話文や登場人物の行動から心情を読み取ったり、文章の構成を考えたりすることによって読む力をつける。 ・ 家庭学習を丁寧に指導して、上手に書いている児童を紹介して、丁寧な学習を価値付けたり、新出漢字の指導の際、正しく書くポイントをおさえたりする。 ・ 言葉の意味や漢字の成り立ちについて、問い返しをしながら、その意味を共有する。		新宿区学力調査の結果では、基礎的な問題においては、目標値を1.4ポイント上回っていた。しかし、応用問題では目標値を3.7ポイント下回った。特に、話し手が知らせたいことを落とさないように聞くこと、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ文章を書くこと、自分の思いや考えが明確になるように文章を書くことで目標値を下回っていることから、次年度は、話を聞き取ること、文章を書くことを中心に指導する必要がある。言葉の意味や漢字の成り立ちについて、その意味を学級で共有することで、正しく理解することにつながった。
	算数	学 既習の内容の理解に差がある。特に、計算力や文章問題では個人差が大きい。 学 自分の考えを伝えることに積極的な児童が多い。一方で、自分の考えと友達の考えの共通点・相違点に気付くことはまだ十分に身に付いていない状況がある。	・ 簡単な計算問題の解き方を考えたり、計算の工夫をしたりする力を伸ばしていく。 ・ 集団検討場面で「同じ・ちがう」を見付ける視点を示し正しく判断できるようにしていく。	・ 基礎的な計算問題を日々の宿題とし、繰り返し反復練習する。 ・ 考えたことを発表する時間を持ち、友達の意見を聞く機会、共有する機会をもつ。その際聞く視点を提示し、共通点・相違点、算数的な考え方のよさに気付けるようにする。		新宿区学力調査の結果では、基礎的な問題においては、1.4ポイント目標値よりも上回っていた。中でもかけ算や数と計算では、4ポイントと大きく上回った。一方で、ものさしの目盛りの読み取り方や、かさの比べ方・dLがついたの乗法の適用は目標値を下回った。このことから、次年度は、ものさしやdL・Lますの目盛りを正しく読むことを日常的に指導するとともに、定規を使って正確に直線を引いたり、三角定規等の算数用具に使い慣れたりなど、技能面も磨く必要がある。また、集団検討場面において、次年度も継続して共通点や相違点に着目する発問を続けることで、算数的な考えの良さに気付けるように指導していく。

3	国語	【調】新宿区学力定着度調査の説明文において、意見を受けて説明を変える問いで正答率が21%と、誤答が目立った。語句の問題については、正答率が90%となっており、概ね定着していると言える。 【学】漢字の書き取りでは、「とめ」「はね」「はらい」「おれ」などを丁寧に書く習慣が十分に身に付いていない状況がある。 【学】音読では、すらすらと読むことができる児童が多い。	• 事柄の順序を考えて書くことを指導する必要がある。順序立てて書くために、つなぎことばを上手に使って、文章を書く力を伸ばしていく。 • 文字を書き順通りに、字形を整えて丁寧に書く習慣を身に付くように指導する必要がある。	• 各教科において振り返りの時間を確保して、自分の考えを書く経験を増やす。 • 家庭学習を丁寧に指導して、上手に書いている児童を紹介して、丁寧な学習を価値付けたり、正しく書くポイントをおさえる。ノート指導においても同様である。		新宿区学力調査の結果では、基礎的な問題においては、1.3ポイント上回っていた。しかし、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くこと、内容の中心を明確にし事実を伝える文章を書くこと、内容の中心を明確にし自分の考えを書くこと等は目標値を下回っている。このことから、次年度は、文章を書くことを中心に指導する必要がある。
	算数	【調】新宿区学力定着度調査において、身近なもののかさの単位の知識面が目標値を下回っている。加減計算の立式は目標値を上回っている。 【学】提出される課題やワークシートの状況を見ると、文章の読み間違いや単純なケアレスミスが多く目立つ。 【学】四則計算では、正確に解くことができる児童が多い。かけ算九九の習得率も高い。	• 長さや重さの表し方の単位関係について考えたり、数理的に処理したりする力を伸ばしていく。 • 文章の題意を正確に読んだり、正確に解いたりする力を伸ばしていく。	• 折にふれて日常生活の中で量感に関する験を積ませて、確かな理解につなげたり、東京ベーシック・ドリルを活用したりして習熟を図る。 • 正しく立式できるようになるために、問題に書かれていることを具体の操作をしたり、図に表したりして、題意を捉えて読む力を身に付ける。 • 解いたものを解き直す習慣が身に付くように、ワークテスト時には、見直ししたらチェックをつけてさせて、見直しの習慣の定着を図る。		新宿区学力調査の結果では、基礎的な問題においては、2.3ポイント目標値よりも上回っていた。四則計算においては、概ね目標値を超えているが、たし算ひき算の筆算は、目標値を下回った。また、身近にあるものの長さを推察して適切な単位を使うことや円の半径とコンパスの使い方等は目標値を下回った。このことから、次年度は、正しい単位の表し方を日常的に指導するとともに、直線を引くときは必ず定規を使ったり、コンパス等の算数用具に使い慣れたりできるよう指導するなど、技能面も磨く必要がある。文章の題意を正確に読んだり、正確に解いたりする力においては、ケアレスミスをなくすように、次年度も引き続き指導する必要がある。
4	国語	【調】新宿区学力定着度調査の書く能力を問う問題ではすべての問題において区内平均を大幅に上回る正答率であった。特に書くことの中心を明確にして文章を書く問題においては、区平均35%に対し50%の児童が条件通りに回答できた。 【学】「書くこと」は苦手ではないが、支援の必要な児童が半数いる。特に、説明文の要点を明確にして要旨を捉える力や正しい語句を使う力はまだ十分に身に付いていない状況がある。 【学】物語を読み、登場人物の心情を把握する能力が高く、物語の世界観を楽しむことができる。	• 説明文の構成を捉え、文章の組み立てを意識させるようにする必要がある。その手立てとして、接続語や指示語についての理解を深められるようにする。 • 文章を読み、活動を増やし、様々な言葉や文章に触れ、文意を正しく把握できるようにする。	• 各教科の活動において、考えをまとめる活動を行い、正しく説明する力や友達の考えを読み取る活動を行う。 • 教科書だけでなく、様々な文体に触れられるように、音読の課題に詩や名文を追加していく。		新宿区学力調査の結果では、基礎的な問題や、活用問題においては、目標値より2ポイントほど上回り、概ね良かったが、記述の「書くこと」の問題において、目標値より15.1ポイントと大きく下回った。指定の字数で書いたり、段落の役割について理解し、次年度は、2段落構成で文章を書いたり、問われていることに対して的確に書き表したりなど、読み取った内容を問われていることに沿って、記述する力を中心に指導する必要がある。接続語や指示語を適切に使って、相手にとって分かりやすい文章を書く力については、次年度も引き続き指導していく必要がある。
	算数	【調】新宿区学力定着度調査の計算技能を問う問題では、2ケタ÷1ケタの正答率は区平均とほぼ同等であったが、3ケタ×1ケタ、4ケタ÷3ケタの問題の正答率が区平均を下回った。 【学】提出される課題やテストの状況を見ると、計算の仕方が雑であったり、正しく筆算をしなかったりする様子がみられる。 【学】解き方を考える活動では、様々な考え方を出すことや知ることを楽しむことができる児童が多い。	• 正確に計算をしたり、正しくノートなどに記載したりする力を付ける。 • 考え方はよくできているので、丁寧に最後まで解答し、見直しをする力をつける。	• 日々の家庭学習として、毎日計算の課題練習を出し、担任が正答、誤答をチェックする。間違えた問題は必ず正しく直すようにさせる。 • 解いたものを解きなおす習慣が付けられるよう各教科の課題やワークテストの見直し時間を設け正しい回答を目指す。		新宿区学力調査の結果では、基礎的な問題においては、概ね目標値を上回っている。しかし、角の大きさにおいては目標値から2.1ポイント下回っている。児童の解答状況を見ると全体的に二極化している傾向がある。次年度は、クラス全体として基礎学習の定着を目指すように問題演習の時間をとると共に、個々の苦手な部分を反復演習できるようにしていく必要がある。

5	国語	【調】新宿区学力定着度調査の結果からは、2 段落構成で文章を書くことに課題が見られた。また、作文に関する他の問題においても、目標値と同程度であった。 【学】ワークテストの状況を見ると漢字の読み書きの力に個人差が大きい状況がある。	・原稿用紙の使い方や段落の意味を理解できるように指導する必要がある。 ・既習の漢字を正確に書きとったり読んだりする力を伸ばす必要がある。	・ふりかえりなど書く活動の際には何段落構成でそれぞれの段落に何を書くのか必ず指定して書かせる。原稿用紙の使い方を書く前に確認し、段落ごとに書く内容を定めてから書かせる。 ・家庭学習の取り組み方を例示したり単元ごとの漢字小テストで 8 割に達しなかった児童に再テストを実施する。		新宿区学力調査の結果では、基礎・活用共に目標値を上回っている。領域別に見ても全て目標値と同じか、上回っている。また、文章を書く問題においては 89.1 ポイントと高い正答率が出ている。普段の学習で取り組んでいる原稿用紙の使い方の徹底や 200 字作文の成果が表れていると考えられる。漢字を書く力は目標値を上回っているものの 62.5 ポイントと正答率が低い。既習の漢字は適宜使う習慣を身に付けたり、前学年の漢字を復習したりして、書き取りの力を付けさせる必要がある。
	算数	【調】新宿区学力定着度調査の結果からは、図形領域ではひし形の作図、数量関係では折れ線グラフの縦軸の目まりの付け方に特に課題が見られた。 【学】計算に時間がかかったり間違いが多く見られたりする。一方、文章問題を数直線に表わしたり解き方を考えたりすることができる児童が多く見られる。	・既習の図形の定義や作図方法、グラフの読み方等を確認め、身に付けさせる必要がある。 ・算数的な考え方については身に付きつつあるため、計算や作図の技能を高める必要がある。	・図形単元の導入で、既習の図形について復習する時間を設ける。グラフは社会科等も絡め、縦軸横軸が何を表しているかを毎回確かめる。 ・朝学習の時間を利用し、計算問題に取り組ませる。		新宿区学力調査の結果では、基礎・活用共に目標値を上回っている。領域別に見ても全て目標値を上回っている。特にデータの活用においては目標値を約 30 ポイント上回っており、確実に力が付いていると言える。基礎学力は 81.8 ポイントと十分身に付いているため、今後は活用問題に取り組む時間を充実させ、身に付けた技能を活用できるようにしていく。
6	国語	【調】新宿区学力定着度調査では、基礎・活用ともに区平均を上回っている。特に、基礎的な問題の正答率は 80%を超えている。「書くこと」の領域も目標値・区平均を上回っている。 【学】筆者の文章構成の意図を読むことに積極的である。読む相手を意識して書く力や自分が学習したことの振り返りを書く力が十分に身に付いていない状況がある。	・語彙や言葉の特徴、きまりについての理解できるように指導する必要がある。 ・読む相手を意識して書く力や自分が学習したことの振り返りを書く力を伸ばしていく。	・定着率の低い言語事項に焦点を当て、朝学習や家庭学習で東京ベーシック・ドリルを活用して基礎の定着を図る。 ・国語を中心として、どの教科でも単元の終末や授業の終末に学びを振り返る文章を書かせる。書くことが当たり前であるという状態を目指す。 ・卒業文章を最終目標に、他者意識をもって作文することや他者に読んでもらって書きぶりの特徴に気付かせるような指導を継続する。		新宿区学力調査の結果では、基礎的な問題は、目標値より 6 ポイントほど上回り、概ね達成されているが、活用の問題は 4 ポイントほど下回っている。領域別にみると、言語事項に焦点を当てて取り組んだことで、言語や読む力については目標値を上回っていることが分かる。一方で、記述の「書くこと」の問題において、目標値から 5.2 ポイント下回っていることから、「書くこと」についての課題が見られた。卒業文集を目指して取り組んできたものの、テーマに沿って記述する力に対する取組は継続する必要がある。
	算数	【調】新宿区学力定着度調査では、基礎・活用ともに目標値を 5%以上、上回っている。特に、「量と測定」領域は 10%近く上回った。単元別に見ると、式の意味理解・数の分類・体積の求め方に課題が見られた。 【学】自分の考えを伝えることに積極的な児童が多い。考えを広げたり深めたりする場面で粘り強く取り組めない場面が見られた。	・十分理解仕切れていない単元を確実に理解できるように指導する必要がある。 ・考えを広げたり深めたりする活動に粘り強く取り組むことように指導する必要がある。	・定着率の低い単元に焦点を当て、朝学習や家庭学習で東京ベーシック・ドリルを繰り返し活用して基本事項の定着を図る。 ・友達と学び合う時間を毎時間必ず確保し、考えを表現することが当たり前という環境をつくる。その上で、全体検討場面では ICT 端末を積極的に活用させ、説明された考えを聞き、解決に向けて粘り強く考える経験を積ませる。		新宿区学力調査の結果では、基礎・活用共に目標値を上回っている。特に、活用については 15 ポイント近く上回っており、考えを広めたり深めたりする活動を継続してきた成果が表れている。領域別に見ても、全体的に目標値を上回っているが、「分数のかけ算・わり算」の問題においては正答率が目標値よりも 3 ポイントほど低かった。焦点を絞って復習する現在の取組に、「分数のかけ算・わり算」を取り組め、より定着させていく必要がある。
音楽		【学】主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動を楽しんでいる児童が多い。その一方で、知識や技能の習得に偏って取り組む児童の様子を見ることがあった。 【学】リコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏では、個別支援を必要とする児童が各学年数名いる。	・音楽表現を工夫し、どのように表現するか思いや意図をもったり、音楽を聴いて音楽のよさを見いだしたりする思考力を伸ばしていく。 ・リコーダーでは、運指や穴をふさぐことができるように指導する必要がある。	・発達段階に応じた題材の選定、協働的な活動の中で音や音楽及び音楽科の特質に応じた言語活動によるコミュニケーションが生かされるような場の設定を取り入れる。 ・個別に指導し、個人で分かりやすくスモールステップで目標を設定し達成感を味わわせる。		新型コロナ感染症対策のために歌唱活動、鍵盤ハーモニカやリコーダー演奏ができない時期があった。協働的な活動も制限されたが、階名読み・リズム遊び・ボディーパーカッション・鑑賞活動に力を入れた。その結果、中・高学年は、音楽を形づくっている要素や特徴を音楽の言葉で表現できるようになった児童が増えた。

